

# 「作られたものから作るものへ」－主体形成としての住宅

連続シンポジウム vol.1 住まいの主体性とは －「おや？」の契機としての事象

2014 年 7 月 16 日 (水) 13:30～17:00

会場: sonorium 東京都杉並区和泉 3-53-16

一般 1000 円 学生 500 円

(参加費はすべて東日本大震災復興義援金として被災地にお送りいたします)

高度消費社会の時代、「生産—消費」の巨大市場システムに埋没し、主体が希薄になっているのは住まいの状況でも同じではないかという問題意識から「住まいの主体性」を考えてみたい。そのために「作られたものから作るものへ」という西田幾多郎のテキストを参照した。しかし、「なぜ作る？作る時代は終わった」という誤解（ハードのことを指すのではないのだが）をはじめ「昔が良かったというステレオタイプの考えはおかしい」、「日本にはもともと主体性はなかったのではないか？」等の見方もあり、いまだ混沌とした渦が巻いている。

技術をはじめ様々な進歩は否定されるものでもなく、また過去に戻れということでもないが、このテーマの背景は、今を生きる我々が未来を見つめる時に、もういちど住むという根源（それは“場所”に存在を関係づける、生きる主体的行為）に立ち返り、主体性を発揮する道を見つめ直すべきではないかとの疑問にある。

今年度の住総研シンポジウムは全 3 回を予定しているが、第 1 回目ではそんな住まいの主体性について、「おや？」といったん立ち止まって考える機会を与えている事象について議論を行う。

木下勇（千葉大学大学院教授 住総研研究運営委員会委員長）

講師

池田秀紀（暮らしかた冒険家） / 小林崇（ツリーハウスビルダー） / 馬場未織（建築ライター）

司会・趣旨説明

木下勇（千葉大学大学院教授）

コメンテーター

村田真（日経 BP 社建設局編集委員）

